

## 国民体育大会に参加して(札幌国体)

### ◆スキー クロスカントリー競技 コーチ 高橋鉄也(新庄北高校教諭)

日ごろより、スキー活動に多大なるご支援とご協力をいただき誠にありがとうございます。失礼ながら素面をお借りし、御礼を申し上げます。

私は国体に今年度を含めて13回目参加しました。その13回は全てコーチとしてで毎年参加する扇子と共に微力ながら、お手伝いをしてきました。

その間、栄光に満ちて輝かしい記録を打ち立てて瞬間や、山形スキー史上、歴史的な敗北を体験しました。言わば、「天国と地獄」を見てきました。

勝っても、負けてもスキーに対する情熱と選手・コーチが一体化して戦う姿は「天国と地獄」であっても変化することなく、チーム山形として過ごした13年間だったと思います。

昨年と今年、スキークロスカントリーチームは、スキー王国山形をより一層印象付ける活躍をしました。コーチ・選手がその場の責任を果たし勝利のために邁進する姿に同じチームながら感激しました。

成年の選手は少年の選手にアドバイス。それを聞いた少年選手は意気揚々とレースを行い、成年の選手は生きた教材というか、酔いりザルトで後輩選手にその手本を示していく。コーチはそのレースに欠ける情報戦略と選手とのコミュニケーションを大切にしながらレースを戦う。どれも素晴らしい光景だったと思います。

この国体に参加した少年選手は、とても自信を付け、酔い刺激になったのではないかと感じます。

最近、政府では「事業仕分け」……スポーツ関連も、その状況下に置かれていることを耳にします。最近の冬季国体の開催地選定に置いても厳しいことを理解しています。

私はこの国体に参加し、世代間を超え、ひとつの目標に向かい反省と評価を繰り返した実践を行うこのサイクルこそ、とても大切でなくせない者であることを実感しています。普段では体験できない貴重な体験や、人と人との繋がり、絆そして協調、団結。今に時代だからこそ大切にしていかなければならない要素が、スポーツには全てあると思います。スポーツの価値は時代を超えて今後も尊重されるべき者であることを13回目の国体で実感しました。

### ◆スキー クロスカントリー 成年女子 選手 青木富美子

国体は高校1年の時から参加していますが、何度出場(参加)しても、気持ち(モチベーション)が高くなります。山形県代表として、誇りを持ってスキー競技全員が一丸となり戦う国体は毎回楽しみです。

そして、今回は12回目の優勝をすることができ、スタッフ・関係者の力でもあり、本当にありがとうございました。いつまで国体で滑れるかわかりませんが、滑れるまで、自分にチャレンジし続けていきます。

◆スキー クロスカントリー競技 成年女子 選手 須藤千郁

今回の国体は悔しい結果となりました。自分の気持ちの面でも納得のいくレースではなく、とても苦しかったです。また、田の成年の選手の頑張りに続くことができなかつたのも、とても残念でした。この悔しさをバネに来年も国体出場をめざし、モチベーションを維持できるように頑張っていきたいです。サポート等ありがとうございました。

◆スキー クロスカントリー競技 少年女子 選手 三浦友維

初めて出場した国体は自分のこれからのスキー競技に大きな影響を与えてくれました。県の代表としていい滑りをしなければいけないというプレッシャーは今まで感じたことのないものでした。でもたくさんのスタッフの方々に支えられ、励まされ、本番を迎えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。今回は自分の納得のいく滑りができなかったため、来年は、今年経験したことをプラスに変えて成長した滑りができるように日々努力していきたいと思います。また、周りの人々に感謝の気持ちを持って、これからの生活を送っていききたいです。

◆スキー クロスカントリー競技 少年女子 選手 有路杏子

今回初めて国体に参加して、とても多くの勉強ができたし、課題も見つけることができました。

今回は山形県チームとして行動をするということで、グリップなどいろいろな人に協力してもらって走ることができたのですが、自分が自分自身のスキーをよく知らないために、グリップが合わず成績も良いものを残すことができませんでした。しかし、青木先生や矢口小百合さんなどトップレベルの人を見ていると、自分でしっかり自分のスキーを理解し、厚さなども調整し、素晴らしい走りをしていました。競技に置いてもラストの上りでの青木先生のジャンプクイックにはとても驚きました。まだまだ成年女子の方々のような滑りには遠いですが、今回この国体に参加することで、本当に間近でいろいろなことを学ぶことができたので、来シーズンはそのことを生かして、また絶対強くなって山形代表として走ります。

◆スキー クロスカントリー競技 少年男子 選手 荒木智史

今年初めて国体に参加させて頂き、課題がとても多く見つかりました。レース中のことだけでなく、レース以前の生活面や山形県選手団としての自覚が足りなかつたかなと思いました。

しかし、悪いところだけでなく、大舞台での経験や成年の方の走りを間近に見れるなど、得るものもたくさんありました。

課題を克服して、得たものを自分に生かして生活やトレーニングをしていきたいです。

とても自分にとって大きな意味のある大会でした。

◆スキー クロスカントリー競技 少年男子 選手 正野雄士

国体という大きな大会に参加することができ、とてもいい経験をさせてもらいました。個人競技では今の自分の持っている力を全て出しきることができました。リレーでのアンカーも走らせてもらって、とても良かったです。リレーでは高校の代表ではなく、県の代表ということでとても緊張しましたが、とても楽しんで走ることができました。ども、もう一つ順位を上げてることができず、とても悔しい思いをしました。

初めての国体でしたが、ひとつひとつの競技に全力で、そして楽しんで参加することができ良かったです。来年も、もう一度県の代表として走りたいと思います。

◆スキー クロスカントリー競技 少年男子 選手 三上幹生

私は今回初めて国体に出場させてもらい、貴重な経験をするすることができました。個人種目では思うような滑りが上手くできませんでした。このレースを通して、技術面や調整の仕方などの足りない部分を発見し、考えることができました。リレーでは3走を走らせてもらい、自分の力を出しきることができて良かったと思います。このレースが自信に繋がり、来年に向けて気持ちを高めることができました。来年はトップをめざしていいレースができるよう努力していきたいと思います。

◆スキー クロスカントリー競技 少年男子 選手 奥山達哉

今回初めて国体という大きな大会に出て、県の代表としての自覚を持って私生活や大会などを過ごすことができたと思います。また、レースでは国体ということを感じせず、自分の日ごろのペースでアップなどを行い、自分の持っている力を全部出しきることができたので良かったです。リレーでは体調不良でメンバーから外されてしまい、悔しい思いをしました。来年、国体が開催されるかはまだわかりませんが、今年の国体で味わった悔しい思いを来年のそれぞれの大会にぶつけて頑張っていきたいと思います。

◆スキー クロスカントリー競技 少年女子 選手 島貫蓮

山形県に貢献できる走りができなくてごめんなさい。下りで避けきれず転倒してしまい悔しいレースとなってしまいましたが、今シーズン1番いいコンディションの状態で挑めました。途中までですが、楽しくレースができました。転倒してからも諦めずに走りきることができました。悔しくて涙が止まりませんでした。女子リレーでの青木先生の走りにはとても感動し勇気をもらいました。まだまだ力不足ですが、また国体で走りたいと強く思いました。たくさんの方々をサポートして頂き、応援して頂きありがとうございました。素晴らしい結果を残せる選手になれるようパワーアップして帰ってきます。